

# 令和5年度 NPO 法人新治里山「わ」を広げる会 事業報告(総括)

## ■令和5年度の事業方針は、下記のとおり。

- (1) 令和6年度から5年間となる第4期新治里山公園の指定管理者に応募する。
- (2) 公園の管理運営方法の再点検とともに、当会の中長期計画について具体化する。
  - ・新治地区の里山保全をすすめるため、市民の森や梅田川の活動との連携
  - ・新治および周辺地区の施設や団体(自治会、学校、わつなぎパーク等)との連携
  - ・広報、普及啓発事業の検討
- (3) 横浜市市民活動推進基金(よこはま夢ファンド)の登録団体を目指す。
- (4) コロナ禍を脱しつつある社会情勢を考慮しながら、日常の公園管理に反映する。

## ■事業方針の総括

- (1) については、応募して令和6年度から5年間の指定管理を引き続き務めることとなった。
- (2) は、7月～3月の長期にわたり、全員参加型(会員に対してオープン)で「にいहारつなげていこう!PJ」と称し、ワークショップ形式ですすめた。舞岡公園のサポートボランティアの方の支援をいただき、中長期計画を「にいहार未来宣言 for2030」としてまとめることができた。  
広報、普及啓発事業については、HPのリニューアルに着手したものの完成に至らず、再検討が必要。SNSはfacebookのほか、Instagramを9月から取り組み、フォロワーが増えている。新治里山ごよみは、三保町での回覧を再開することができた。各種連携活動については、下表参照。
- (3) は今年度も着手できなかった。寄付を集め事業助成を受ける基盤を整えたい。
- (4) については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、人数制限等の緩和、食のイベント再開などすすめることができた。換気や衛生管理については引き続き意識しながら公園の管理を行った。

## 事業内容

### 1. 新治里山公園 指定管理業務

感染症防止対策が緩和され、日常の清掃に消毒を意識しつつ丁寧に行うように努めた。食を伴うイベントも再開、秋まつりやどんど焼きなど、多くの方の協力を得て開催。緑区内小学校8校が見学学習や遠足などで来訪。昨年に続きケヤキの枝おろしを地元職人により実施、展示用外便所の竹垣を市民の森愛護会の協力も得て自ら制作した。企業や大学の学習会やボランティア活動の受入れも行った。

### 2. 新治里山公園運営プロジェクト

- ・プロジェクト登録メンバー数は63人(5人増)。
- ・偶数月及び9月の第一日曜日に運営プロジェクト企画会議を行い、7回実施。
- ・6月のプロジェクト会議の後、部会担当でPJ報告会をおこなった。
- ・秋まつりは11/12に実施、悪天候のため規模縮小でおこなった。
- ・食に関するイベントも再開、かしわもちづくりはPJMで研修を行った。
- ・新治里山ごよみを4回、9月から5,000部発行。

### 3. ウェルカムセンター運營業務

- ・「森に親しむ・学ぶ行事の開催」については、市民参加型生きもの調査、学校連携行事、ほかの森紹介(出張観察会および展示)、「にいहार自然じかん」の4カテゴリーとして実施した。
- ・谷戸田および新治小ビオトープへのツチガエル里帰りプロジェクトへの協力(繁殖センター)。
- ・新治での生物相モニタリングを定着していく一環として里地里山モニタリング1000へ登録、調査開始。
- ・新治市民の森保全管理計画定例会(月1回)の事務局を担い、関連団体間調整なども対応した。

#### 4. 谷戸田の保全活動（谷戸田を守る会）

- ・田んぼ 11 枚で、黒米、もち米、うるち米を作付。 冬季湛水、不耕起など取り入れ、農薬・化学肥料不使用で栽培。酷暑のため収量は 628kg。前年比 73%となった。
- ・田んぼ体験のイベントを実施。田植えと稲刈りを行った。 10 組 20 名。
- ・シュタイナー学園 7 年生の里山活動体験(くろつけ、稲刈り)を受け入れ。 20 名。
- ・ツチガエルの保全活動に協力、繁殖センターより放野された後、確認できたら報告をした。
- ・事務局では横浜市森づくりボランティア団体登録および報告業務、新人研修などの支援を行った。

#### 5. 新治恵みの里発展会 朝市運営補助業務

春・夏の端境期を除き 42 回 開催され、販売補助を行った。

#### 6. 梅田川 水辺の楽校協議会への参加、運営協力

- ・11/4 梅田川遊水池のかいぼりと生きもの調査への協力。
- ・新治小、三保小の生きもの観察会への協力。
- ・ホテルうちわの配布を実施、運営委員会は交流センターで 5 回開催した。

#### 7. 地域連携

##### ◆地域交流事業

- ・十日市場中学校吹奏楽部スプリングコンサート、新治里山秋まつりは悪天候でも開催することができた。どんど焼きも例年通り実施、近隣住民等、多くの人を訪れた。
- ・新治市民の森愛護会、一本橋メダカ広場水辺愛護会は、日常的な連携関係にあり、引き続き協働していきたい。

##### ◆学校連携

- ・十日市場中学校地域交流事業の会議に参加、どんど焼きの手伝いに生徒が 15 名が参加してくれた。
- ・新治小学校 5 年生 学校田んぼの支援を 5 月～11 月にかけて実施(ウェルカムセンター関連業務)。
- ・「むかしの暮らし」学習として 7 校 659 名の受け入れ(ウェルカムセンター関連業務)。
- ・シュタイナー学園には縄ない等のプログラム提供、里山保全活動ボランティア受入れ。
- ・そのほか、まちたんけんや森・川歩きに関する事など情報提供、施設利用等を実施。
- ・大学のゼミ等での学習会、ヒアリングに対応。

(東洋英和、明治大、横浜市大、東京造形大、山梨県立大、農大)

##### ◆わつなぎパーク事業

- ・関係団体等で3回会合を実施、令和6年6月21日に夏至のイベントを行うこととなった。
- ・青少年みどり遊楽舎(森のクラフト)や里山会(元気づくりステーション)、恵みの里発展会(栽培収穫体験)などがイベント実施。

##### ○十日市場地区対応

- ・とおかいちば・まちづくりスクール ヤーンボーミング 展示協力。
- ・グレースシア十日市場まちびらきイベントに出展。
- ・十日市場の放課後ディサービス cocoon への活動協力、里山の自然体験を通してアートの発表会実施。